

# 美濃桃山陶と千利休

～ 内緒のモウソウのお話 ～

作: 清原なつの

千利休とさえば  
楽茶碗の赤と黒が  
有名だけど  
他の色は好まれ  
なかつたんですか？

呼び捨て…

黒は古きころ  
赤は雑なるころ

宋港日記

ねえ

ねえ

青は？  
黄色は

緑は

紫

茶

えーと  
えーと

白は？

志野茶碗とか

白い美濃焼きの  
天目は

武野紹鷗先生が  
お持ちだった

九尾屋節田家

尾張徳川家

若い物欲時代の利休  
それ すつごく

欲しかったでしょう？

志野という呼び方は  
私の時代ではまだ無かった

白い美濃焼だ

へえ

実は

ある日

亀に  
頼まれたんだ

お嬢様に？

天正元年だったかなあ

お父様

白いお茶碗を  
作ってもらえませんか？  
どなたかに  
お願いして下さい

白？

……

茶には合わんと思う  
紹鷗先生の白天目は  
良い茶碗だが

白色はなあ：

抹茶の色が  
もつと鮮やかな緑色なら  
はえるかもしれんが

イマイチ  
だと思っ

製茶技術が

進んで

いなかったので

この頃の

お抹茶は

白っぽかったそうです





親孝行で  
かしこく美しい  
利休の娘龜は

千少庵の妻となり  
千宗旦の母になる

千宗旦は  
茶道三千家の祖

- 表千家
- 裏千家
- 武者小路千家

白い茶碗の  
流行に合わせて…  
製茶技術も  
鮮やかな緑色を  
めざして進歩した



昭和5年4月11日  
その竹の子の破片を  
見つけたのが  
荒川豊蔵

桃山時代の  
志野焼が  
美濃で焼かれていた  
証拠になった

案内の中学生  
加藤 肇

荒川 豊蔵 36才

可児寺  
夕々利大堂

徳川美術館蔵  
竹の子文  
志野筒茶碗  
「玉川」

荒川豊蔵作  
「随縁」



昭和



桃山

